

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 奈倉道隆 なぐらみちたか |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位記番号 | 論医博第536号 |
| 学位授与の日付 | 昭和48年5月23日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当 |
| 学位論文題目 | 現在の医療供給態勢に関する社会医学的研究 —入院患者の発病から社会復帰に至る迄の問題点— |
| 論文調査委員 | (主査) 教授 藤原元典 教授 西尾雅七 教授 桂英輔 |

論文内容の要旨

研究目的

近年の医療技術の進歩、疾病構造の変化、社会保障の拡大などによって、医療の需要は質的にも量的にも変化したが、医療を供給する医療態勢には過去数十年來本質的な変化がみられない。

この跛行は、発達した臨床技術を効果的に適用することの妨げとなったり、適切な医療を適切な時期に供給する際の隘路となっている。

これを打開するためには、医療の供給態勢を現在及び将来の医療技術と疾病構造に適合したものに改める必要がある。

本研究は、それに寄与することを目的として、Field Workにより現在の医療供給態勢を実証的に把握し、社会医学的考察を試みたものである。

研究方法

近畿地方にある各種病院21ヶ所に入院する内科・外科患者約2,000名を対象に、発病から入院・退院・社会復帰に至る過程を追跡し、入院までの受療動向と在院期間・退院時転帰との関係、退院後の受療継続状況と自宅療養の状態、社会復帰上の問題点などを系統的に調査した。

調査期間は昭和37年2月より5ヶ年間にわたった。

調査方法は、対象者1人1人に入院中に面接して発病から入院迄の受療動向を聴取し、退院時点から1・3・6・12ヶ月目に自宅へ調査表を郵送してその時の状況を質問した。臨床医学的知見は、入院カルテと入院中及び退院時に実施した主治医に対する意見調査に依って得たものである。

調査成績の概要

① 発病から初診までの放置期間の長い患者、初診後入院迄に頻々と転医した患者、入院時期の遅いと判定された患者などには、在院期間が延長し退院時転帰がよくない傾向が認められる。

② 退院後も通院治療を必要とする患者は、退院者90%に達するがその1/4は退院1ヶ月後も通院治療を

開始しておらず、医療の中断が高率に認められる。

③ 退院1年後にも通院治療を継続する患者は退院者の40%以上に達し、慢性的経過をとる患者が増大している。

④ 退院から社会復帰までの長さは、疾病の性質と患者の社会的・家庭的状況とに関係する。そして一旦社会復帰したのち再び療養状態へ逆戻りする患者は、療養期間の短い者、受療中断者、労働が過負担であった者、生計が悪化した者などにおいて高率である。

考察の概要

① 疾病の早期発見早期治療をおこない、入院治療が必要な患者をすみやかに適切な医療機関へ転医させる健康管理的な家庭医の制度が必要である。

② 罹病期間の長期化に対処し、病院における入院治療と居住地域の医療機関における通院治療との有機的な連絡を保つこと、各種医療機関の機能分化を明確にし相互の連携を高めること、また社会復帰を促進するために中間施設を設けることなど、医療の体系化をはかる必要がある。

③ 在宅療養者に対しては、治療のみでなく必要に応じて訪問看護をおこない、さらに療養条件を向上させるための社会福祉的な援助がなされねばならない。

とくに患者年齢が高齢化しつつある今日、その必要性は一層高まるものと考えられる。

論文審査の結果の要旨

この論文は近代医療技術の目覚ましい進歩にもかかわらず、慢性疾患の増大という疾病構造の変化に対し、現在の医療供給態勢がこれに適合していないため医学が国民の健康に十分寄与していない現状を実証的に論じたものである。

著者は21の病院の内科・外科各種疾患入院患者約2,000名を対象に発病から社会復帰または死亡迄の受療と自宅療養の状態を面接及び郵送法によって追跡調査を実施した。その結果、入院前の受療過程に問題のある患者は在院期間や退院時転帰に不利な影響がみられること、退院者の90%が通院治療を必要としているが医療の中断が高率に認められること、社会復帰後再びその病気で安静・臥床の必要な状態に逆戻りする者が社会経済的条件に恵まれぬ者に多いこと等を明らかにした。

この知見に基き地域の医療機関が疾病の早期発見早期治療の役割及び病院等との適切な連繋によって退院後の通院治療を担当するような医療供給体制を確立すること、更に在宅患者に対する看護婦・家庭奉仕員の派遣等社会福祉的対策が必要であることを指摘している。

本論文は現在の医療の供給体系の問題点を実証的に指摘し、それに基づく提言を行っている学術上価値ある研究である。

よって、本論文は医学博士の学位論文として価値あるものと認める。